

(令六国グ後)

小論文

- ・問題は1～9ページである。
- ・下書き用紙は中に2枚入っている。

注意 解答は答案用紙に縦書きで記入しなさい。

小論文 二〇〇点

次の文章を読んで、あとの問一〜三に答えなさい。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

出典 リービ英雄『我的日本語』（筑摩書房、二〇一〇年）より。一部改変した部分がある。

注

- 1 『星条旗の聞こえない部屋』——筆者であるアメリカ人のリービ英雄（一九五〇）が一九九二年に出版した小説。
- 2 李恢成——一九三五。小説家。
- 3 ジェイムズ・ボールドウィン——一九二四～一九八七。アメリカの小説家、公民権運動家。
- 4 李良枝——一九五五～一九九二。小説家。一九八九年に『由熙』で芥川賞受賞。
- 5 川村湊——一九五一。文芸評論家。
- 6 ポストコロニアル文学——植民地支配や帝国主義の影響を批判的にとらえなおす文学作品。
- 7 司馬遼太郎——一九二三～一九九六。小説家、評論家。

問一 傍線部(ア)について、著者は、『由熙』における李良枝の観点が「それまでの『在日文学』」とはどのように異なると考えているか。二〇〇字以内で述べなさい。(配点三〇点)

問二 傍線部(イ)について、著者は、李良枝の「ことばの杖」という表現を「最高の比喩」と評しているが、どのような点が「最高」であると考えているのか。三〇〇字以内で説明しなさい。(配点五〇点)

問三 傍線部(ウ)の問いについて、著者であるリービ英雄の主張をふまえたうえで、あなた自身の見解を、自分の体験や親しんでいる文化に言及しながら、一〇〇〇字以内で論じなさい。(配点一二〇点)